はじめに

これまでにオーストラリア関連の書籍を5冊執筆した。オーストラリアが日本にとって現在も将来も欠かせない重要なパートナーであるにもかかわらず、その重要性について一般的にはほとんど知られていない。これまでの書籍ではその事実を詳しく紹介してきた。ひとえに日本においてオーストラリアの知名度を喚起するのが目的であった。今回それらの総仕上げとしてオーストラリアのあらゆる側面をカバーする、いわばオーストラリアについてのエンサイクロピディアを世に出すことにした。オーストラリアで一般的に公開されている政府や団体の情報、統計はもとより、ネット上の論文や随筆なども加味し、膨大な資料を参考にした。さらに筆者独自の知識、経験や考察も総動員した。

筆者がはじめてオーストラリアの地に足を踏み入れてから半世紀が経過した。オーストラアリアは相当変化した。当時の印象は典型的な西洋の国であった。道行く人はほとんど白人だけであったが、今日では四方八方多彩な有色人種であふれかえっている。当時日本からの訪問者は年間数千人であったが、今日では50万人前後の日本人が訪問している。この半世紀の間に多民族・多文化国家として発展している。オーストラリア社会は世界の潮流に同乗しつつも、オーストラリア独特の国民性、価値観を高揚させ、アジアの一員であることの認識を深めつつ、環太平洋地域での独自の立場を模索している。

本書を開けば、そこにはオーストラリアのすべてが読者を待っている状態にするため鋭意努力をした。本書は30章121節で構成されている。歴史、国体、政治、法律、自然、宗教に始まって国民性・価値観、慣習・行動規範、国民生活、教育、言葉、人間・家族関係、食文化、住環境、交通事情、観光を詳しく解説し、産業、経済、貿易、国

防・外交、労働環境、鉱物資源、エネルギー、食糧問題、労働・職場環境、社会保障、医療制度を検証し、動植物、先住民、マスメディア、多文化主義、オーストラリアの将来図までカバーした。それぞれの項目では、歴史を振り返り現実を忠実に記述することに重点を置きながら、客観的な論評や主観的な考察も展開した。加えて、日本との比較検証もできる範囲で実行した。その結果、従来の百科事典とは少し趣が異なる。これまでにオーストラリアをとことん隅々まで網羅した単一の書籍はないと思う。オーストラリアをよりいっそう知ってもらうために役に立てば筆者冥利に尽きる。

また、本書が今後の日豪関係にとって何かの示唆になればこれ以上の喜びはないと思っている。特にこれからオーストラリアに留学や移住を考えている人、文化交流、地域交流で活動している人、将来オーストラリアに投資や進出を考えている人、食糧の輸入に関心の深い人、家庭の台所を取り仕切っている主婦、エネルギーや原料確保の多様化をもくろんでいる企業、オーストラリアの法律、文化、経済などを勉強している人、社会科の先生、オーストラリアをこれからのキャリアと考えている学生、若者など、さまざまな人たちにとって参考になれば幸いである。

オーストラリア大全―とことん知ろう

目　次

はじめに……i

第一章　歴史　オーストラリアの生い立ち……1

一　はじまり　1
二　流刑地として　3
三　ゴールドラッシュ　8
四　オーストラリア連邦国家の誕生　12
五　世界大戦を経て　16

第二章　国体・政治……19

一　連邦制　19
二　この国の君主はいまでもイギリス女王　21
三　政党の誕生、2大政党制の確立　22
四　選挙制度　26
五　政治と金　33

第三章　法　律……38

一　複雑な法制度　38
二　裁判制度　43
三　犯罪の現状　45

四　企業犯罪　47
五　変わった法律いろいろ　48

第四章　宗　教……54
一　歴史的背景　54
二　キリスト教の影響　56
三　現在の宗教事情　58

第五章　地理・自然環境……61
一　プロフィール　61
二　過酷な自然との闘い　65
三　自然の驚異　71
四　自然災害　77

第六章　国民性・価値観……83
一　国民性の特徴　83
二　自由・平等、社会的公正　88
三　メイトシップ（仲間意識）　93
四　寛　容　94
五　判官びいき、トール・ポピー症候群　96

第七章　行動規範・慣習……101
一　オージー・スタイル　101
二　行動規範　104
三　冠婚葬祭　106
第八章　国民生活……110
一　奉仕（ボランティア）・寄付　110
二　社会の仕組みやマナー　113
三　余暇の楽しみ方　116
四　ギャンブル、酒、たばこ　118
五　スポーツ大国　127
六　アウトドアライフ万歳　132
七　芸　術　140
八　プライバシー　141
第九章　交通事情……143
一　歴史的背景　143
二　公共の乗り物　147
三　道路事情　149
四　車社会　152

五　自動車運転免許　154
第一〇章　観　光……158
一　概　論　158
二　豊富な観光資源　160
三　観光業の将来は？　164
第一一章　住環境……167
一　ゆとりの住空間　167
二　都市計画　170
三　住宅事情　171
第一二章　食文化……175
一　食の歴史　175
二　食材の確保　180
三　日本の食卓を飾るオーストラリア産　182
四　肥満問題　186
第一三章　国が抱える課題……189
一　格差の広がり　189

二　連邦と州の確執　191
三　違法薬物の乱用　192
四　貧困、ホームレス、家庭内暴力　193
五　生物多様性の危機　195

第一四章　人間関係・家族……199
一　個人主義社会　199
二　家族のあり方　202
三　結婚・離婚　204

第一五章　教　育……206
一　しつけ　206
二　体罰容認　207
三　学校生活　209
四　高等教育　213
五　教育は成長産業　217

第一六章　言　葉……220
一　オーストラリア英語の特徴　220
二　米英語との比較　225

第一七章　産　業……228
一　第一次産業　228
二　製造業の盛衰　247
三　サービス産業の隆盛　250
第一八章　経　済……252
一　経済発展の歴史　252
二　果敢な経済改革　256
三　オーストラリア経済の特徴　261
四　税　金　267
第一九章　貿　易……272
一　貿易概要　272
二　アジア依存　275
第二〇章　国防・外交……279
一　背　景　279
二　アメリカに追従　281
三　外交・安全保障の将来　283

第二一章　労働環境……290
一　労働に対する考え方　290
二　就活と労働条件　293
三　職場の人間関係　298
四　ビジネスのオージー・ルール　301

第二二章　鉱物資源……305
一　概　要　305
二　豪州版花咲か爺さん　307

第二三章　エネルギー事情……328
一　概　要　328
二　再生可能エネルギー　332
三　将来の課題　政策　335

第二四章　福祉・老後・医療……338
一　社会保障政策　338
二　老後の生活　339
三　老後の保障　341
四　老人養護制度　344

五　医療保険制度　348

第二五章　食糧事情……352
一　概　要　352
二　食糧生産　353
三　オーストラリアの食品衛生・防疫体制　361
四　アジアの食糧基地　366
五　食の安全保障　368

第二六章　動植物と生態系……371
一　生きた化石　卵を産む哺乳類　373
二　珍しい有袋類の仲間　374
三　怖い海の生き物たち　386
四　太古の植物　388
五　環境異変・生態系破壊　394

第二七章　先住民族……400
一　人類最古の文明継承者　400
二　先住民政策の変遷　405
三　和合の日はいつ？　415

四　先住民の未来は？　418

第二八章　マスメディア……421
一　歴史的展開　421
二　通信・放送・プリント媒体　422
三　映像産業の浮沈　426

第二九章　多民族・多文化主義……431
一　多民族・多文化の背景　431
二　移民政策の変遷　437
三　人種偏見と差別　441
四　共生社会へかじ取り　446

第三〇章　未来図……458
一　共和制への誘い　459
二　国のシンボル　462
三　外交の行方　465
四　アジア・太平洋経済圏　467
五　オーストラリアはどこへ？　468
六　将来に向けてのチャレンジ　477

おわりに……483
参考文献・資料……485